

店舗での買い物が難しくなった方々にこちらから出向いて日常の買い物環境を。  
移動スーパーの取組とそこから生まれる人と地域の自然な交流

### 取組の概要

- 移動スーパーを展開し、来店が難しくなった高齢者でも日常の買い物ができる仕組みを提供している。
- 事業の準備を一から整え、社内外の多様な関係者と調整し、自社の車両、スタッフで運営している。



暑い日でも多くの方が買い物を楽しんでいました。

### 解決したい課題

- 高齢者の来店頻度が低下し、来店しても重い品物を持ち帰れないという相談が多い中で、日常の買い物を支援したい。

### 実現したい未来

- 移動スーパーでの買い物後に健康測定や食育相談等を実施し、地域の活性化につなげていきたい。
- 買い物支援に限らず、地域住民の暮らしを広く支える存在としてあり続けたい。

## INTERVIEW

### 1. 高齢者の買い物困難を背景とした支援

「頻繁に買い物に行けない」「来店しても重い品物を持ち帰れない」という高齢者からの相談が多い中で、「日常の買い物を支援したい」「来店できない方々がいらっしやるのであれば、こちらからお伺いする」という方針で、生活者のもとへ直接出向く移動スーパーの展開を始めました。

### 2. 一から整えた運営体制

事業開始にあたっては、どんな車を使うか、どんな商品を積むか、どのルートで回るかなど、事業の基盤となる要素を一から整えるところから始まりました。他社の取り組みを参考にしつつ、行政や自治会、ケアプラザなど多様な関係者と連携し、地域に合った販売拠点を整備していきました。社内においても移動スーパー事業の意義や必要性を理解してもらうための調整が必要でした。

### 3. 移動販売が生む地域のつながり

移動販売は、単に商品を届けるだけのサービスではなく、地域に自然な交流を生み出す場として機能しています。利用者同士の再会や交流も生ま

れ、同じ団地に住んでいながら「十年ぶりに会った」という声もありました。また、移動販売が毎週同じ曜日・同じ時間に行われることで、従業員と利用者が顔なじみとなり、互いの体調や生活の変化に気づきやすい関係が築かれています。これは通常の店舗ではなかなか生まれない、移動スーパーならではの事象です。地域によっては、自治会が全戸にチラシをポスティングする、テントを用意する等して移動スーパーを盛り上げ、地域全体で支えているケースもあります。

### 4. 生活支援を拡張する未来へ

買い物支援、見守り支援、地域コミュニティの形成、健康支援の4つをこの取組の柱として考えています。今後は、社内の別部署と連携することによって、移動スーパーの場で、健康測定や食育相談等を実施していきたいです。こうした取組によって、地域のさらなる活性化につながればと考えています。企業として買い物支援にとどまらず、様々な面で地域住民の生活全体を支えていきたいです。

話し手【取材日：令和8年1月17日】

●甲斐 久和 さん（株式会社マルエツMD本部営業企画部  
移動スーパー導入担当課長）

●溝渕 孝之 さん（株式会社マルエツMD本部営業企画部 課長）